

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	木材振興室長 大國 敏彦	電話番号	0852-22-5156
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	林業・木材産業成長基盤づくり事業（加速化基金を含む）		
目的	(1) 対象	市町村・森林組合などの林業・木材産業の事業者等	
	(2) 意図	間伐及び路網整備、伐採から搬出・利用の一貫した取組による間伐材のフル活用、地域木材・木質バイオマスの利用を一体的に促進する	
事業概要	林業・木材産業を強化するため、間伐実施、作業道整備、木材生産用機械導入、木材加工施設整備など林業・木材産業の基盤整備を支援する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	島根県産原木の自給率（KPI）	目標値	38.0	39.5	41.0	42.5	44.0	%
	式・定義	県内の木材産業（製材・合板・チップ・燃料等）が調達した原木量に対する県内産原木の供給量の割合	取組目標値						
			実績値	38.0					
			達成率	100.0	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値						
	式・定義		取組目標値						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	1,726,549	2,474,609
うち一般財源 (千円)	1,155	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基いた現状）

H21年度からH27年度までの7年間に、間伐実施、作業道整備、木材生産用機械導入、木材加工施設整備などを推進した。
 【主要メニューの実施状況（H21～H27）】
 間伐実施 10,833ha 作業道整備 1,116km 高性能林業機械等導入 64台 木材加工施設整備 35施設

近年、着実に原木生産は増加している。 H23 H24 H25 H26 H27
 314 374 384 407 475千m³

6. 成果があったこと（改善されたこと）

林業・木材産業の事業者に対する精力的な働きかけにより、作業道や木材加工施設などの産業基盤整備が進んだ。
 特に平成27年は、県内2箇所の木質バイオマス発電所が稼働し、林地残材の供給量が増加し、県産原木生産量も増加した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
 原木増産と木材加工体制の強化は、一定程度進んだが、木を「伐って使って、植えて育てる」循環型林業を本格軌道に乗せるには、さらなる条件整備・環境整備が必要である。
- ②困っている状況が発生している「原因」
 木材価格の低迷等により、事業者が必要な施設整備に取り組みにくい状況が続いている。
- ③原因を解消するための「課題」
 森林資源の成熟、公共施設の木造化の機運の高まり、輸入木材の価格の上昇など、林業・木材産業の活性化にとってチャンスが到来している。
 この点を事業者の説明して、さらなる条件整備・環境整備に対する理解を求めめる必要がある。
 基盤整備の効果を最大限に引き出すため、原木増産を行う事業者と木材加工を行う事業者の強い連携（原木需給調整、取引協定）を促す必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

あらゆる機会を通じて、事業者と意見交換を行い、林業・木材産業成長基盤づくり事業を活用した、将来の事業展開に不可欠な設備への先行投資を働き掛ける。

9. 追加評価（任意記載）

課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。